

上越道路事務所では、経年劣化や塩害により損傷した舗装や橋梁、トンネル等の土木構造物の補修改良工事を行っており、私はその工事の施工管理に携わっています。入社2年目となり、現場での仕事が増え、保全技術や安全管理などの知識、経験を多く積むことができました。まだまだ知識が不十分で、壁にぶつかることもあります。周りの方々に助けをもらいながら諦めずに挑戦をしています。高速道路という、重要な社会インフラを守ることへの責任感を持ち、技術者として日々成長している実感があるのでやりがいを感じます。これからも、高速道路と共に成長し続けたいです。

自分の可能性を信じ、
高速道路と共に成長し続けたい。

上越道路事務所 土木課 施工管理係 平成26年入社 荒川 涼



al is Here.

プロたちの想い～

長岡高専 環境都市工学専攻科
平成25年度卒業

暮らしを支える高速道路を、支える仕事。社会に貢献し、成長できる職場で活躍中！

土木・建築系



高速道路の補修工事の現場で活躍。大きな感動が待っています！

高速道路の利用者に安全・安心・快適・便利を提供するために、補修工事。中越地震の体験からこの仕事を志し、第一線で活躍する清水さんは、充実した毎日を送りながら、成長を実感しています。

湯沢道路事務所 土木課 土木保全管理係
清水 遼介

2010年入社 環境都市工学科卒
高専の環境都市工学科で過疎地域のコミュニティ形成を研究後、ネクスコ・エンジニアリング新潟へ入社。湯沢道路事務所高速道路の土木構造物を補修する工事の施工管理を担当。

巨大な構造物を守り、社会を支え、貢献する高速道路の工事。なぜ、その仕事を選んだのか、そこではどんな仕事をしているのか、どのようなやりがいを感じながら、活躍しているのか、現場からの声をお伝えします！

長岡高専 環境都市工学科
平成21年度 卒業

高速道路の重要性に気づいた中越地震の経験から、暮らしを支える仕事を選択。



現場を把握し、相談を重ねることが、高速道路の補修工事には重要です。学生時代に培ったコミュニケーション能力が、普段の仕事に活かされます。

私の親や親戚が土木に係わる仕事をしている影響で、私は以前から、家を建て、街をつくる土木の仕事や、都市計画に興味を持っていました。そこで、環境都市工学科へ進み、土木の基礎を学んだのですが、次に、地域で暮らす人々のコミュニティに興味を持つようになり、「過疎地域のコミュニティ形成の仕

組み」を研究のテーマにしました。過疎地域を訪れ、実際に住民と会話をし、どのような行事が行われているのか、地域で暮らすことの不満や、良いところはどこかなど、ヒヤリングを重ねました。やはり、人間は話さないとわからないものです。この時に実感したのは「コミュニケーションの大切さ」でした。その後、就活を行うにあたり、私が思い出したのは、中学3年生の時に、中越地震で被災した体験です。その時、私は、高速道路がわずか1日で仮復旧し、支援物資の輸送に役立ったことに驚いたんです。同時に、高速道路が、いかにたくさんの人々の暮らしを支えているかを痛感しました。

その体験を元に、地域に住む人々の暮らしを学んだあとは、それを支える仕事に就こうと考え、私は当社に入社したんです。

新人の頃は、各先輩が管理・監督を行う補修工事の仕事を手伝うことで仕事を覚えました。図面の作成や、工事で必要となる材料や、補修範囲等の数量計算

など、簡単な業務から始まり、知識と経験を少しずつ積み重ねていきました。

初めて自分の担当工事を行ったのは、入社4年目です。経年劣化や凍結防止剤散布の影響により錆びが発生した、鋼橋の塗替塗装工事でした。「コミュニケーションの大切さ」を忘れることなく、とにかく工事受注会社と何度も何度も話し合いながら工事を行いました。「昨日はあんな問題が起きたくて、それを解決して今日も工事は前に進んだ」というような手応えを感じながら、毎日少しずつ物ができていきます。工事が完成した時に感じる醍醐味は、言葉では言い尽くせません。完成した時に上司から「よくがんばったな！」と声をかけてもらったことを、今でも感慨深く思い出します。

緑の下で社会を支える、強い使命感を感じながら、仕事をしています！



橋の塗替塗装における塗膜厚さをチェック。維持管理の仕事は細心の作業の積み重ねから生まれます。今日の作業が明日の仕事につながり、やがて感動となって実を結ぶのです。

私は現在、NEXCO東日本が発注する、舗装や橋、トンネルなど土木構造物の補修工事を、発注者という立場で管理・監督しています。

現場の工事の管理では、第一に「安全管理」、そして「品質管理」、「工程管理」を行っています。

「安全管理」については、作業される方々が安全に作業できていることが、安心・安全な高速道路をお客様へ提供する第一歩であると考えています。安全に関する規則を把握し、それを現場に反映することで「危険の芽」を摘む。監督する立場として、工事の全てにおいて安全を最優先しています。

「品質管理」は、我々の求める品質に仕上がっているか、また、使用材料や施工条件が基準を満たすようなことがないかを現場で立ち会い、一つひとつ確認を行っています。

「工程管理」は、日々変化する現場の状況に対応しながら工期に遅れないようにします。現場では思いもよらないことが起こるもので、受注者の方と打ち合わせを重ねて、当初に計画していた工程へと近づけられるように軌道修正を行います。

「高速道路を利用されるお客様には、『当たり前』に利用できる高速道路を維持していくために緑の下で支えている。そして、それが社会の役に立っている」という使命感を感じています。維持管理の仕事は、今ある構造物を少しでも長く、そして安全に使うために行う仕事です。それが、費用軽減にもつながります。何もせずに、短い期間で使えなくなれば、再び同じものを、多額の費用をかけて作り直さなくてはなりません。私たちの仕事は、今後もますます重要な仕事になってゆくと思います。

根拠を考え、改善を提案する。よく学び、よく楽しむ。暮らしを大切にしています。



先輩から学んだ知識と、現場で蓄積した自らの経験を、後輩に伝えます。先輩がそうだったことを思い出して、後輩の質問にはいけない、きちんと納得するまで答えます。

現在の仕事をしているうちに、ものごとを順序立てて、根拠つけて考えるようになりました。自分自身で「これはなぜだろう」と疑問を持つことも多いのですが、受注者から「なぜこうするのか」「なぜこう書くのか」と聞かれることもあり、常に物事の根拠を把握しておこうという意識が高くなっていると思います。それから、プライベートでも、人に何かを説明することが、以前に比べて、上手になったと感じますね。

入社6年目になりますので、これからは「こうしたら、以前よりもっと効率的に構造物の損傷を把握できる」など、改善提案をどんどん出せるようになりますね。私は入社以来4回、年に1回開催される業務改善研究発表会で発表することがあります。実際に、グループで実験を実施し、検証を行なっています。

会社の雰囲気は、建設的意見であれば若手も上にもどんどん言いたいことが言える雰囲気です。とにかく、意見を否定しない環境ですね。きちんと私たちの言葉を聞いて、改善につなげていくことを実践しています。それに、一を聞けば十くらい返ってくる先輩たちがいます。明るく、和気あいあいとした職場で「学びやすく、教えやすい」環境が整っていると思います。

職場は湯沢なのですが、私の趣味はスキー、スノーボード、そしてバイクのツーリングなので、まるで自分の庭に職場があるような感覚ですね。当社にはウインタースポーツのサークルもあり、会社も社員の多様なサークル活動を支援しています。

学校で学ぶ工学や工法は、実はほんの一部のものでしかありません。どういった機械を使い、どういった段取りで行うか、現場では「物はこうやって造られている」「物はこうやって劣化した」という現実をたくさん見て、経験し、学ぶことができます。「暮らしを支えるものを、支える仕事」は、とてもやりがいがあり、成長できる仕事だと思いますよ。